

オンライン講座・体験講座による学びの機会の提供を探る

—「徳島おもてなし体験講座」を通して—

生涯学習支援課 海部 泰雅

要 旨

本研究は、マナビィセンターにおける子供向けの生涯学習の充実を図ることを目的として、オンラインと体験活動を組み合わせた「徳島おもてなし体験講座」による学びの可能性を研究したものである。研究の結果として、オンライン講座の導入により、地理的な制約を解消し、子供たちの学びへの参画を促進する効果が見られた。また、体験活動を通じた学びでは、徳島県の文化や魅力を外国語で発信することを通して、子供たちの地域社会への主体的参画を促す可能性が示唆された。一方で、子供たちはオンラインよりも対面での交流や体験を重視する傾向が見られ、オンラインと体験活動の双方の利点を生かした講座運営の在り方を検討する必要があることも明らかとなった。

キーワード：子供、体験活動、オンライン、生涯学習、グローバル、ウェルビーイング

I はじめに

長寿化が進展する人生100年時代において、生涯を通じたウェルビーイングの実現には、教養を高め、多様な人々と出会い、自己実現を図るための学習を個人の自発的意思に基づいて行うことが重要である。第4期教育振興基本計画（文部科学省）に示されているように、子供や若者、社会人、高齢者等、年齢を問わず学び続け、生涯学習を通じて自らの向上や地域や社会への貢献の意欲を持ち、当事者として地域社会の担い手となる人を尊重する社会がめざされるべきであり、そのために社会教育が果たす役割は非常に大きい。

また、第4期教育振興基本計画の、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の中で、「ウェルビーイングが実現される社会は、子供から大人まで一人一人が担い手となって創っていくものである。社会全体のウェルビーイングの実現に向けては、個人のウェルビーイングが様々な場において高まり、個人の集合としての場や組織のウェルビーイングが高い状態が実現され、そうした場や組織が社会全体に増えていくことが必要となる。子供たち一人一人が幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々とともにつくっていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが一人一人の子供や地域を支え、更には世代を超えて循環していくという在り方が求められる。」^{*1}と述べられており、大人だけではなく、子供たちの主観的な認識の変化が求められている。また、現代は将来の予測が困難なVUCAの時代とも言われており、多様な価値観や文化的背景を理解し、グローバルな視野で活躍するための資質や他者と協働してチームで問題を解決する協調性も求められている。さらに、「各学校段階における教育DXの推進」では、「生涯学習においては、遠隔・オンライン教育の活用による受講の利便性の向上や学習履歴の可視化におけるデジタル技術の活用を推進すべきである。」^{*2}とあり、県民の生涯学習を支援する施設であるマナビィセンターにおいても、対面による講座とオンラインを活用した講座

のそれぞれのよさを生かしながら、講座を実施していくことが必要である。

マナビィセンターでは、地域住民の交流や子育て支援の場づくりができる講師の育成や受講者同士の交流を深める場を目的とした「マナビィセンター主催講座」、家庭や地域の子供たちを地域総ぐるみの豊かな育みにつなげることを目的とした「共育たのしみ隊パワーアップ講座」、家族で参加できる様々な体験を通して家族の絆をより深めるとともに、子供の学習への興味・関心や意欲の向上を目的とした「ファミリー体験プロジェクト」、徳島の魅力を発信したり、友好的で円滑な

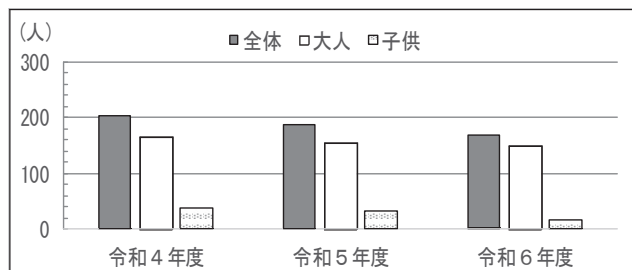


図1 マナビィセンター主催講座受講者数の推移

コミュニケーションを図ったりできる人材を育成するための「徳島おもてなし体験講座」など、様々な講座を実施している。受講者へのアンケート結果からは、いずれの講座も受講者から高い評価を得ており、満足度は高くなっている。

しかし、マナビィセンターにおける講座は、前年度からの継続受講している受講者が多くを占めており、新規受講者の割合は少なくなっている。

受講者数の推移を見ると、令和4年度より大人も子供も年々減少傾向にある(図1)。その要因としては、年齢を理由に受講を辞められる方の増加と、コロナ禍を経ての新規受講者の減少、県内の人口の減少等が考えられる。また、総合教育センターの立地場所は、登り坂が多い場所であり、JRの最寄り駅からの徒歩での移動が負担であることや最寄りのバス停における運行本数が少ないことも、新規受講者数の減少の要因としてあげられる。さらに、遠くに住んでおり、参加したくても来館できない受講者もいると考えられる。子供の参加については、参加できるのは基本的に、学校の授業のない土日の講座になり、保護者等の送迎が必要であることや、塾や習い事等も多様化しており、通年で総合教育センターに通うには難しいことが要因の一つと考えられる。

そこで本研究では、受講割合の低い子供の新規受講者を開拓し、社会教育における子供の学びの充実を図るために、小中高生を対象とした「徳島おもてなし体験講座」に焦点を当て、オンラインを活用した体験講座による学びの機会の提供について分析を行っていくこととした。

II 研究仮説

マナビィセンターの生涯学習支援事業において、小中高生を対象とする、オンラインと体験活動を取り入れた「徳島おもてなし体験講座」を実施することで、受講者の距離的制限が解消され、子供の新規受講者の増加を促し、本県の生涯学習の推進に寄与するであろう。

III 研究の実際

1 「徳島おもてなし体験講座」について

(1) 経緯

令和4年度に「2025年大阪・関西万博応援事業」として、小中高生を中心に、万博について広く県民に周知するとともに、関西広域連合の一員である徳島県民として、主体的に万博に関わっていく機運を高めるために開講された。令和4年度は、英会話・韓国語会話・中国語会話などの語学を中心としたオンライン講座と、万博について理解を深めるための万博応援講座を実施した。そして、講座を終えた受講者を「おもてなしサポーター」として認定し、

徳島県の魅力を伝える一人としての意識を高めるためにピンバッジや認定証を配付した。

令和5年度からは、「マナビィセンター主催講座」の中に位置付けられ、国の事業である「地域ぐるみで『体験の風を起こそう』運動推進事業」から財源を確保しながら運営を行うこととなった。オンラインによる外国語会話講座の他に、徳島の文化や魅力を体験し、その魅力を他言語を用いて発信したり、交流したりする体験講座を実施することで、子供たちの地域社会への主体的参画を促した。

令和6年度は、オンラインによる外国語会話講座を、学年による学びの経験差が少ない中国語会話・韓国語会話に絞り、実施した。また、子供たちの国際的な視野と徳島のよさを伝える「おもてなし」の心を育むことや、学年を越えた活動を通して、交流の輪を広げることを目的として、各オンライン講座で交流をした後に、中国語・韓国語合同で体験活動を実施した。

このように、「徳島おもてなし体験講座」は、大阪・関西万博の応援を起点として、子供たちの徳島県への郷土愛を高め、地域社会へと進んで参画していこうとする機運を高めるために、オンラインと体験活動の両方を活用しながら、取り組んできた。

(2) 講師について

「徳島おもてなし体験講座」では、「2025年大阪・関西万博」に来日する外国の方に、徳島のことを紹介したり温かいおもてなしをしたりできるようにすることを目的に、「語学の習得だけでなく、徳島の魅力を子供たちに伝えられる方」、「御自身も徳島のよさを実感されている方」、「各方面で講座などを開催し、講師経験の豊富な方」を基準として、次の3名の講師を選定した。

① 英会話講師

県内大学准教授として、異文化コミュニケーションや文学等を研究しており、異文化共生や異文化理解を深めるための取組や、日本を訪問する外国の方に向けてのガイドブックや旅行についてのアドバイスを行っている。地域の魅力を国際的な視点から再発見する活動を展開している。

② 中国語会話講師

県内の勤労者支援機関に勤務し、多文化共生社会の実現に向けた取組を行っている。徳島県民と外国の方が共に暮らしやすい地域づくりをめざし、YouTube等を活用した講座の配信も行っている。また、徳島の文化や魅力についても発信しており、講師自らも藍染め等の徳島のよさについて理解している。

③ 韓国語会話講師

県内のカルチャーセンターで韓国語講座の講師を務めており、初級から上級まで幅広い指導経験をもっている。日本と韓国両方の文化や生活について深い理解があり、双方の視点から学習者のつまづきやすい点を的確に捉え、実践的で分かりやすい授業を展開している。

2 オンライン講座の実施状況

(1) オンライン講座の実施方法について

「徳島おもてなし体験講座」を始めるに当たり、コロナ禍が明けて間もない時期であったため、対面だけの講座の実施が難しく、誰もが参加しやすいオンラインを取り入れた講座を行う

こととなった。また、子供たちを対象とする講座であり、学校現場にもGIGAスクール構想が推進され、徳島県内の子供たちにもタブレット活用が浸透してきたことも、オンライン講座を取り入れるきっかけとなった。

オンライン講座では、総合教育センターのGIGAスタジオから、Zoomを活用して子供たちに配信を行った（図2～4）。受講者には、事前に講座ごとにメールでやりとりをして、ZoomのIDとパスワード、オンライン講座のテキストを送付した。



図2 配信画面（講師）



図3 配信画面（職員）



図4 配信の様子

(2) 英会話講座について

オンラインの英会話講座は令和4年度のみ、徳島の魅力について紹介するために英会話を学ぶことを目的として、中高生を対象に全5回講座を実施した（表1）。講師には、県内大学の准教授を招いて、自己紹介の仕方や四国八十八カ所の紹介の仕方等について御講義いただいた（図5・6）。

表1 令和4年度 英会話 オンライン講座 実施内容

講座名	対象	日程	内容	参加者数
おもてなし英会話	中1～高3生	11月20日	初めまして。英語で自己紹介	17
		12月18日	四国八十八カ所等の紹介発表①	13
		1月8日	四国八十八カ所等の紹介発表②	10
		2月5日	四国八十八カ所等の紹介発表③	13
		3月5日	また会いましょう。自由トーク。	12

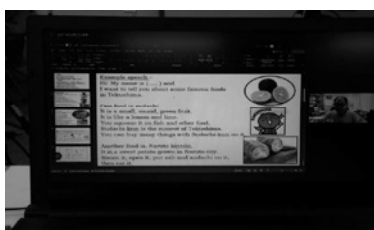


図5 講師による配信の様子

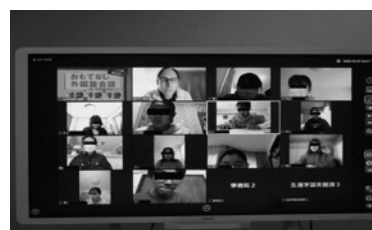


図6 受講者との対話の様子

(3) 中国語会話・韓国語会話講座について

令和4年度は中国語・韓国語共に小中高生を中心とした世代が、友好的かつ円滑なコミュニケーションを図り、おもてなしができるよう学びの機会を提供することを目的としてオンライン講座のみ実施した（表2）。

令和5年度からは、外国の方との「体験活動」と「オンラインによる語学講座」とを融合させた学びにより、来県する外国の方と友好的かつ円滑なコミュニケーションを図れる人材の育成を目的として、オンライン講座を実施した（表3・4）。講師の先生には、オンラインにおいてもジェスチャーや表情を意識して、受講者とのやりとりを大切に取り組んでいただいた（図7～9）。

表2 令和4年度 韓国語会話・中国語会話 オンライン講座 実施内容

講座名	対象	日程	内容	参加者数
おもてなし中国語会話	小5～高3生	11月20日	初めまして。中国語で自己紹介	19
		12月28日	阿波踊りを紹介する	14
		1月8日	鳴門の渦潮を紹介する	11
		2月5日	四国八十八カ所の一番札所を紹介する	9
		3月5日	また会いましょう。自由トーク	9
おもてなし韓国語会話	小5～高3生	12月3日	初めまして。韓国語で自己紹介	14
		1月21日	阿波踊りを紹介する	11
		2月4日	鳴門の渦潮を紹介する	13
		2月18日	四国八十八カ所の一番札所を紹介する	13
		3月4日	また会いましょう。自由トーク	10

表3 令和5年度 韓国語会話・中国語会話 オンライン講座 実施内容

講座名	対象	日程	内容	参加者数
おもてなし中国語会話	小5～高3生	6月11日	四つの声調・自己紹介	延期
		6月25日	四つの声調・自己紹介	10
		7月9日	藍染め	10
		7月23日	お遍路	9
		9月10日	徳島の食べ物	8
		10月8日	徳島の観光地	7
		11月12日	藍染めの手順	6
		12月3日	中国語でスピーチしてみよう	6
おもてなし韓国語会話	小5～高3生	6月11日	韓国語のしくみ・あいさつ	15
		6月25日	藍染め	17
		7月9日	お遍路	15
		9月10日	徳島の食べ物	延期
		9月24日	徳島の食べ物	9
		10月8日	徳島の観光地	10
		11月12日	藍染めの手順	中止
		12月3日	韓国語でスピーチしてみよう	11

表4 令和6年度 韓国語会話・中国語会話 オンライン講座 実施内容

講座名	対象	日程	内容	参加者数
おもてなし中国語会話	小5～高3生	7月7日	四つの声調・自己紹介	13
		8月4日	藍染め・渦潮を紹介してみよう	10
		9月8日	徳島の食べ物や観光地を紹介してみよう	9
		9月29日	徳島のすてきなところを中国語で紹介してみよう	9
おもてなし韓国語会話	小5～高3生	7月7日	韓国語のしくみ・あいさつ	20
		8月10日	藍染め・渦潮	14
		9月8日	徳島の有名な食べ物・観光地	9
		10月20日	徳島のすてきなところを韓国語で紹介してみよう	7



図7 中国語会話講師の様子



図8 受講者とのやりとり



図9 韓国語会話講師の様子

オンライン講座のテキストについては、実施する体験活動に向けた内容を意識し、事前に講師とメールにてデータをやりとりしながら作成していった。実施したオンライン講座での受講者の様子から、次回のテキスト内容を調整したり、1回50分という短い時間の中で学ぶことができるような内容に絞ったりと、工夫しながらテキストを準備した。他には、中国語や韓国語の表記には、必ずカタカナでの読み方と、言葉の意味を入れるようにし、韓国語や中国語の豆知識や話すときに使える表現を掲載する等、受講者の理解を促すとともに、興味を引くことができるように工夫した(図10~13)。

2. 韓国語のあいさつ

アンニョンハセヨ

- 안녕하세요 / こんにちは、こんばんは
カムサハムニダ
- 감사합니다 / ありがとうございます
ミアネヨ
- 미안해요 / ごめんなさい
チャル プタカムニダ
- 잘 부탁드립니다 / よろしくお願いします

図10 韓国語テキスト 読み方表記

【豆知識】

韓国語は、基本の母音と子音の組み合わせのほかに、パッチムと呼ばれる発音しきれない音があります。たとえば、K+A = 「ガ(カ)」という音に、Mの音のパッチムを組み合わせると「ガム(カム)」という文字になります。ここでMの音は「ム」と発音しきれずに、Mの音を口を閉じて軽く発音します。

ウン/ヌン ウル/ルル イ/ガ

*助詞の ~은/는, ~을/를, ~이/가 はパッチムの有無で形が変わるので注意!

図11 韓国語テキスト 豆知識

2、徳島の食べ物や観光地を会話で紹介してみよう!

しやうみ

デア ダオ ラー ミエン ウエイ ダアオ ヘン ハアオ
① 德島拉面味道很好。
(徳島ラーメンはとてもおいしいです。)

チンイー ディンチー ガー イー パイ
② 请一定吃炸鱼排。
(フィッシュカツをぜひ食べてみてください。)

図12 中国語テキスト 読み方表記

話すときに使える 一言コーナー

① 谢谢(xie xie)「ありがとう」 ② 请问(qing wen)「すみません」
③ 一路平安。(yi lu pin an)「よい旅を(お気をつけて)」

4つの「きれい」…中国語ではきれいに使い分けがあります。

① 好看(hao kan)「見た目がきれい」 ② 美丽(mei li)「自然がきれい」
③ 干净(gan jing)「清潔のきれい」 ④ 漂亮(piao liang)「人工的きれい」

図13 中国語テキスト 豆知識

(4) アンケート結果について

オンライン講座についてのアンケートによると、講座の満足度は、令和4年度から令和6年度の全て、「とても満足」「満足」を合わせた割合が100%となっており（図14）、受講者にとっては、満足度の高い講座となっていることが分かった。また、アンケートのコメントでは、「オンラインで初めてしたので、とても緊張したけど韓国語を初めて言えて嬉しかった」、「中国語で自己紹介ができ、とても勉強になった」、「徳島のことについて、外国語で言えるようになったので観光客の人が来ても、説明できるようになった」、「テキストがあるから内容が分かりやすく、発表に対してのアドバイスなどもくださり、とてもよかった」など、肯定的な感想が多く見られた。オンライン講座の受講者の中には出先からタブレットで参加し、受講している方も何名も見られた。どこにいてもオンラインで受講することができる気軽さや、対面で受講するよりも参加しやすいという参加へのハードルの低さも、オンライン講座の満足度が高い要因であると考えられる。

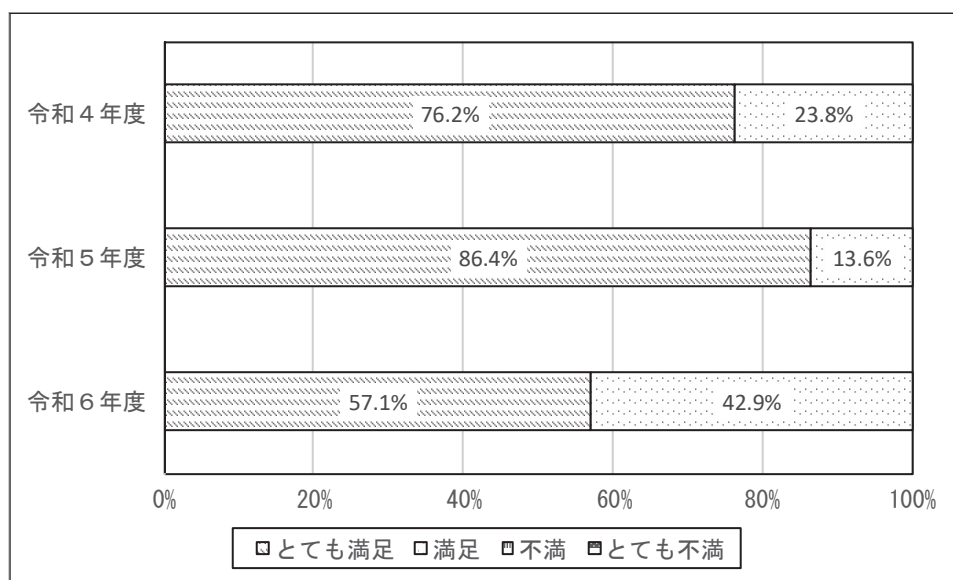


図14 令和4年度から令和6年度オンライン講座の満足度（まとめ）

3 体験活動の実施状況

(1) 「地域ぐるみで『体験の風をおこそう』運動推進事業」について

「地域ぐるみで『体験の風をおこそう』運動推進事業」は、国立青少年教育施設がない府県を対象に、地域の関係機関や団体が連携して、子供たちの自然体験・生活体験の機会を広げる取組を進める事業である。体験活動の重要性を広く社会に伝え、地域全体で体験活動を支える体制づくりを行うとともに、子供の健やかな成長と地域的基盤の強化を目的としている。

徳島県では、令和5年度から「徳島から体験の風をおこそう運動推進事業」として、生涯学習課が母体となり、「とくしま家庭教育のつどい」「牟岐少年自然の家ブックキャンプ」「高校生読み聞かせボランティア養成講座」等多くの事業を実施している。その取組の一つとして、総合教育センターでは、「徳島おもてなし体験講座」を計画し（図15・16）、体験活動に向けたオンライン講座と組み合わせることにより、より充実した体験活動ができるよう取り組んできた。

主催 徳島県立総合教育センター「徳島から体験の風をおこそう」運動推進実行委員会

徳島おもてなし体験講座

～おもてなし外国語で体験しよう～

受講者募集!

「2025年 大阪・関西万博」にやってくる外国の方に、「中国語」「韓国語」で「徳島のこと」を紹介したり、「温かいおもてなし」ができるように応援します!
 ※※※講座の終了者は「おもてなしポーター」として認定します※※※

【申込締切】令和6年6月29日(土)午後5時

【韓国語会話】

【講師】先生

【講師】先生

【対象】小学5年生～高校生(定員:20名) ※初心者OK、習熟度は問いません

【ワケワ講座日程】

○韓国語: 10:00～10:50
 ① 7/7(日) ② 8/4(日)
 ③ 9/8(日) ④ 10/20(日)

○中国語: 13:30～14:20
 ① 7/7(日) ② 8/4(日)
 ③ 9/8(日) ④ 9/29(日)

【体験活動日程】 ③8/24(土) 9:00～16:00(場所:「藍の館」「渦の道」)
 「徳島のよさを体験しよう!」

体験活動は、中国語・韓国語を上手に活用して阿波のよさを体験して、韓国語や中国語で徳島のよさを伝えられるようになろう!

※移動は大型バスで行います。(催事前発着予定)
 ※体験活動にかかる費用には一部参加者に負担していただくものがあります。

【中国語会話】

【講師】先生

【講師】先生

図15 講座チラシ 表

【申込先】 徳島県立総合教育センター生涯学習室 生涯学習課
 (徳島県東条郡東条町伏木東1-7)
 【電話】 088-672-5400
 【FAX】 088-672-5462
 ※お問い合わせの際は、表裏にご確認ください。
 【電子申請】 おのQRコードをスマートフォン等で読み取り、必要事項を入力してください。

【申込締切】 令和6年6月29日(土)午後5時
 ・収集した個人情報は厳重に管理し、目的のみに使用します。

【その他】

- 定員を超えた場合は抽選になります。
- 当選された方には、7月1日(月)までにメールまたは電話でご連絡いたします。
- 当選されなかった方には、ご連絡いたしませんので、ご了承ください。
- 受講料は無料ですが、体験活動に必要な入館料等はご負担いただきます。
- オンライン受講には、事前にご使用になる情報端末にZoomアプリをインストールしていただく必要があります。
- オンライン講座は、各講座の約1週間前までに、詳しい内容やZoom参加用のIDとパスコードをお知らせします。※第1回目は当選結果と共にお知らせします。
- 講座で使用する資料等のデータを送付する場合があります。お申込の際、データを受信できるパソコンやタブレットのメールアドレスの登録をお願いします。(携帯電話のアドレスでは受信できないことがあります)
- 中国語・韓国語は全5回(体験活動を含む)の内、3回以上の参加で、おもてなしポーターとして認定し、認定章(ピンバッジ)をお送りします。
- 本講座は、県立総合大学校「まなびあそび」教育社会学部生涯学習講座として、1時間につき1単位取得できます。詳細につきましては、お問い合わせください。

申し込み票

【受講する講座】 ※希望する講座に○をつけてください。
 () 韓国語会話 ・ () 中国語会話
 ※複数回の講座をお申し込みいただけます。

【お名前】 【学年】
 【受講者氏名】 小学・中学・高校 () 年

【お住所】 【電話番号】
 【保護者氏名】

【住 所】 (〒 -)

【メールアドレス】 ※できればパソコンやタブレット等のアドレス

図16 講座チラシ 裏

(2) 活動内容

「徳島おもてなし体験講座」の体験活動は、令和5年度・令和6年度は徳島県の伝統文化や、豊かな自然と触れ合うことのできる県内の観光地を中心に、場所を設定した。徳島県の魅力について子供自らが体験し、実感したことを、自分の言葉で外国の方に伝えることができるようにするために、交流の内容を工夫しながら次の5講座を行った(表5)。

表5 令和5年度・令和6年度の体験活動実施内容

	年度	日時	行き先	参加者数
①	令和5年度	8月5日	徳島城博物館	18
②		8月27日	とくしま国際戦略センター	18
③		11月18日	阿波十郎兵衛屋敷	11
④		11月26日	藍の館	14
⑤	令和6年度	8月24日	技の館 渦の道 大鳴門橋架橋記念館EDDY	21

① 徳島城博物館

徳島城博物館では、学芸員の方の解説を聞き、英語ではどう伝えるのか講師からレクチャーを受け、交流するための表現や知識を学んだ(図17)。その後、徳島城周辺の散策をしながら学



図17 講師のレクチャー



図18 フィールドワーク

んだ内容を実際に活用してフィールドワークを行った（図18）。体験活動による、受講者同士の交流を通して、英語学習へのモチベーションを上げることにもつながった。

② とくしま国際戦略センター

とくしま国際戦略センターに、中国語や韓国語を、母語とする方々を招き「日本の伝統遊びで交流しよう」と題して「コマ回し」「だるま落とし」「けん玉」「めんこ」の4つのブースを作り、グループで回りながら交流



図19 ブースを回る活動



図20 伝え合う活動

を行った（図19）。交流では、中国語・韓国語のそれぞれの講師の支援を受け、参加者同士が互いに伝えたい内容を伝え合うことができた（図20）。

③ 阿波十郎兵衛屋敷

阿波十郎兵衛屋敷では、初めに、座学による歴史文化を学び（図21）、その後、観劇や人形浄瑠璃の操作の体験を行った（図22）。自らの体験をもとに、徳島のよさを発信するための機会として、受講者同士の交流の場を提供した。



図21 歴史文化学習



図22 人形浄瑠璃体験

④ 藍の館

藍の館で藍染め体験を通して受講者同士の交流活動を行った（図23）。また、偶然居合わせた外国の方を前に、講師の支援を受けながら、学んだ言葉で話しかけるなどの実践的な活動も体験することができた（図24）。



図23 藍染め体験



図24 外国の方との交流

⑤ 技の館・渦の道・大鳴門橋架橋記念館 EDDY

技の館では、藍の歴史について、館長より話を聞き、実際に藍染め体験活動を行った。その際に、「藍」や「染める」等の言葉を韓国語や中国語を用いて、伝え合う活動も行った（図25）。その後、受講者全員で交流会を行い、韓国語・中国語講師が、それぞれの国の文化について紹介したりクイズをしたりして交流を深めた（図26）。

渦の道では、渦潮を見学し、渦潮について紹介する表現等について学んだ。

大鳴門橋架橋記念館EDDYでは、館内の中国語や韓国語の掲示板などに注目し、オンラインで学んだ表現が使われていることなどを体験した（図27）。



図25 技の館



図26 交流会



図27 大鳴門橋架橋記念館EDDY

(3) アンケート結果について

体験活動を行った後、受講者に講座の満足度や講座の内容が自分の役に立つかどうか、講座の感想等のアンケートを実施した。また、令和6年度には、オンラインでの講座と対面による講座のどちらを受講したいか、受講方法に関する希望調査も行った。

① 満足度について

体験活動では、令和5年度、令和6年度ともに「とても満足」「満足」を合わせた割合が100%となり、オンライン講座同様に満足度は高い結果となっている（図28）。このことから、多くの受講者が、体験活動への参加について肯定的であることが分かった。

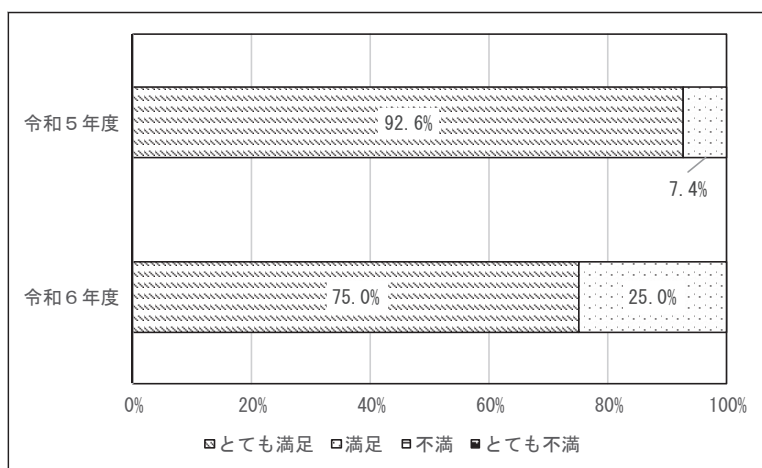


図28 令和5年度・令和6年度体験活動の満足度(まとめ)

② 体験活動が役に立つかについて

体験活動を受講して、自分の役に立つかどうかのアンケート結果によると、「役立つ」と感じている受講者の割合の合計が令和5年度は96%、令和6年度は100%だった（図29）。このことから、多くの受講者が体験活動に意義を見出していることが分かった。

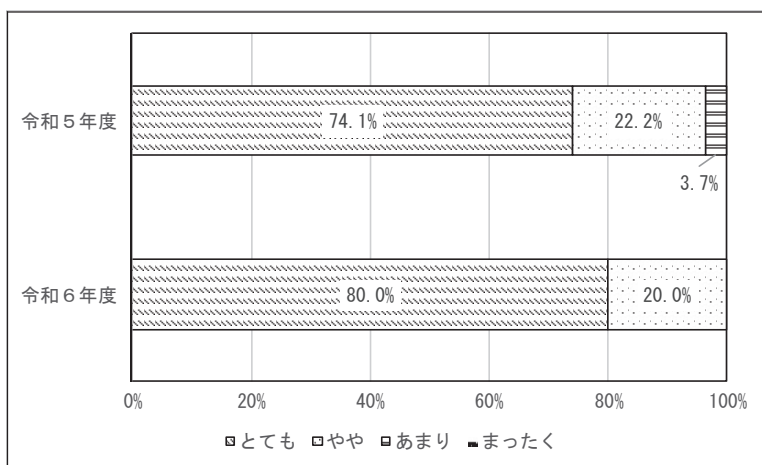


図29 令和5年度・令和6年度体験活動が役に立つか(まとめ)

③ 受講者の感想について

体験活動の受講者からは、語学への関心が高まったこと、徳島のよさを新たに発見したこと、交流を通して友達の輪が広がったこと、体験活動を生かしてさらにやってみようと思うことが増えたなど、体験活動に対する前向きな感想が多く見られた（表6）。このことから、体験活動を通して、自分に自信を持ったり、知識が深まったりして、生きた知識として、これからの自分の生活に生かそうとしている様子を伺うことができた。

表6 令和5年度・令和6年度受講者アンケート 受講後の感想より

○外国語での実践的な会話ができ、今後の語学の学習に生かせようと思った。
○外国語にさらに興味を持つことができた。
○実際に外国語を使って、会話をすることができ、よい体験になった。
○徳島について知らないことがたくさんあったが、徳島についての新たな知識が増えた。
○徳島に観光に来た外国の方に、道案内や観光名所の説明をするのに役立つと思った。
○外国の文化を知りながら、新しい友達もでき、楽しく徳島の文化を体験することができた。
○今度は実際に外国の現地に行ってみよう。
○いろいろな言語で同じような体験をまたしたい。

④ 受講方法について

令和6年度には、受講前と最後の講座終了後に、オンラインと対面による講座の受講方法について、希望調査を行った。受講前は、オンラインが47%、対面が53%、受講後はオンラインが40%、対面が60%と、受講後は対面がわずかに増加しているものの、どちらも同程度の希望があることが分かった。

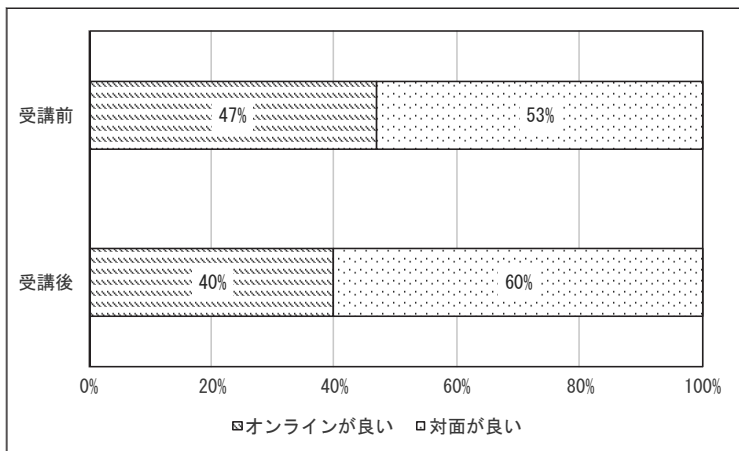


図30 受講方法の希望調査（令和6年度）

希望理由については、オンライン希望者からは「対面だと行くときに時間がかかるから」、「いつでも参加しやすいから」、「対面だとはずかしいから」等の意見があり、対面希望者からは「対面の方が分かりやすいから」、「その場で聞けて、時間にラグがないから」、「みんなともっと交流出来そうだから」等の意見があった。

IV 研究の成果と今後の課題

1 本研究における成果

- (1) 「2025年大阪・関西万博応援事業」として、2025年開催の大阪・関西万博について、小中高生を中心に、広く県民に周知することで、関西広域連合の一員である徳島県民として、主体的に万博に関わっていく機運を高めることができた。

- (2) 子供たちを対象とした、「徳島おもてなし体験講座」を実施することで、令和4年度から令和6年度までに延べ人数494名の、多くの子供たちが学校や校種を越えて、参加することのできる講座を提供することができた。
- (3) オンライン講座を取り入れることで、場所や移動時間にとらわれることなく受講者にとって参加しやすい講座を提供することができた。また、オンラインでの画面を通して、受講者一人一人との丁寧な会話によるやりとりを実施することができた。
- (4) 県内観光地での体験活動を通して子供たちの交流の輪を広げ、オンラインによる講座を併用することで、ただの知識としてだけではなく、生きた知識として様々な経験を身に付けていく受講者の様子を垣間見ることができた。

2 本研究における今後の課題

- (1) コロナ禍を経て、社会全体で子供たちの体験活動の場が不足している現状がある中、生涯学習や社会教育の場においても、子供たちや家族ぐるみでの体験活動を取り入れた講座の一層の充実が求められており、これからも進めていく必要がある。
- (2) 小学生から高校生まで幅広い年代の子供たちを対象とする「徳島おもてなし体験講座」では、受講者の学年等によって語学に対する理解度に差があるため、講座内容をうまく設定する必要がある。
- (3) オンラインによる講座では、参加しやすい一方、欠席もしやすくなり、回数を重ねるごとに受講者数が減っていく傾向があることが課題である。また、講座の実施日が土日であり、子供たちの学校行事や、習い事などと重なることも多く、全ての子供たちが実施日に都合を合わせることが難しいため、回数や期間の設定も課題である。

V おわりに

現代において、子供や若者、社会人、高齢者等、年齢を問わず学び続け、生涯学習を通じて自らの向上や地域や社会への貢献の意欲を持ち、当事者として地域社会の担い手となる人を尊重する社会がめざされている。マナビィセンター主催講座においても、オンラインと体験活動の両方のよさを取り入れながら、大人だけではなく、子供たちの生涯学習も充実させていくことが肝要である。本研究では、県内の多くの子供たちが体験学習の機会を求め、期待を持っていることを伺うことができた。これからの講座運営について、多くの子供たちが参加できる、様々な形態の講座の機会を提供していきたい。ひいては、徳島県における生涯学習の更なる充実に向けて、その役割を果たせるよう、マナビィセンターの講座運営に取り組んでいきたい。

最後に、これまで長年に渡り「徳島おもてなし体験講座」に関わってくださった、講師の先生方及び、諸機関全ての方々に感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

*1 文部科学省「第4期教育振興基本計画」、令和5年6月16日、20頁

*2 文部科学省「第4期教育振興基本計画」、令和5年6月16日、21頁

参考文献

- ・文部科学省「第4期教育振興基本計画」、令和5年6月16日
- ・文部科学省「第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」、令和6年6月